

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1471100139
法人名	社会福祉法人 百鷗
事業所名	グループホーム 葉山の里
訪問調査日	平成28年10月18日
評価確定日	平成29年1月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 28 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471100139	事業の開始年月日	平成15年12月1日	
		指定年月日	平成15年12月1日	
法人名	社会福祉法人 百鷗			
事業所名	グループホーム 葉山の里			
所在地	(240-0113)			
	神奈川県三浦郡葉山町長柄235-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成28年10月4日	評価結果	平成29年2月7日	
		市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方が、ご家庭と同様な生活を出来るように出来る限りの支援を行うと共に、自由な雰囲気と安心できる家庭的な環境があります。外出行事を多く行い、買物・外食と家庭に居られた時と同じ状況を行います。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成28年10月18日	評価機関 評価決定日	平成29年1月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①この事業所の経営は、社会福祉法人「百鷗」です。同法人は、葉山町と逗子市に特養「清寿苑」を運営し、葉山でこのグループホームを含めてグループホームを2か所展開し、この地域の高齢者介護事業の中核を担っています。この事業所は、JR逗子駅からバスで10分のバス道から少し中に入った閑静な住宅地にあります。理念に「利用者の尊厳を守り、地域に開かれ愛され信頼される生活を目指して、温もり・優しさ・安心・安全をコンセプトにしたサービスを提供します」を掲げています。理念から始まるその年度の事業計画があり、年初の事業計画会議や毎月のスタッフ会議での話し合いが行われ、管理者自ら率先垂範で理念を体現したケアが行われています。開所から13年弱が経過し、職員の皆勤続年数が長く、理念は職員に浸透しており利用者に対応する優しいケアが具現化されています。

②ケアについて、管理者は今年4月に同法人の他部署から転任さればかりですが、ケアの根幹に「年を重ねた利用者が最後にこのホームで過ごして良かったと思える事、毎日を楽しく過ごしていただきたい」と考えており、ケアの技術もさることながら、心を大切にしながら職員は、「自分の親と思ひ」ケアしています。

③地域との関係は、毎月の町内会例会に、管理者が参加し、事業所の報告をしています。防災の協力等も要請し、事業所の避難訓練には、近隣住民が参加頂ける関係になっています。町内婦人会主催の「ふれあいサロン」では、カラオケ、体操などが行われ、利用者が何人か参加しています。町内の夏祭りには、ホーム駐車場を休憩場として御神輿を利用者に披露して頂いています。地域のボランティアが毎月定期的に、フラダンス、ゲーム・歌等の披露して、活発な地域交流が行われています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム葉山の里
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体としての理念、事業所としての事業計画を作成し、より地域に密着したホームを実践している。	理念は、「利用者の尊厳を守り、地域に開かれ愛され信頼される生活を目指して、温もり・優しさ・安心・安全をコンセプトにしたサービスを提供します」です。理念から始まるその年度の事業計画があり、年初の事業計画会議や毎月のスタッフ会議での話し合いが行われ、管理者自ら率先垂範で理念を体現したケアが行われています。開所から13年弱が経過し、職員は皆勤続年数が長く、理念は職員に浸透しており利用者に対応する優しいケアが具現化されています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	下町内会に加入し、月1回の定例会に参加したり、「ふれあいサロン」に出席し、昼食を囲み地域の方々との交流を図っています。町内行事には極力参加しています。	町内会に加入し、月1回の町内会定例会に参加しています。町内婦人会主催の「ふれあいサロン」では、カラオケ、体操などが行われ、利用者が数名参加しています。町内の夏祭りでは御神輿の休憩場として事業所の駐車場を提供し、御神輿の利用者にも披露してもらっています。また、地域のボランティアによる歌、フラダンス、ゲームなどの交流も行われています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回の定例会に出席し、苑の状況を話したり、支援方法を地域の皆様に説明している。今回は地域の方々の協力により、家庭での不用品（タオルやシーツ類）の回覧板の効果で大変助かっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1回開催 町の職員、民生委員、家族の代表、利用者2名参加して頂きサービスの報告や活動状況、検食して頂きサービス向上に努めている。グループホームでの現状を報告しています。	運営推進会議は、4カ月に1回開催して、町の職員、民生委員、家族代表、利用者2名も参加していただき、活動報告や事故報告なども含め、現状を正直に報告し、開かれた事業所作りを目指しています。前回の会議では、帰宅願望の方の見守りケアや認知症の進行防止ケアの実状を報告しています。メンバーからのご意見・要望は、業務に反映させています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村職員とは、日頃連絡を密にして情報を共有しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	葉山のグループホームは、本法人の2事業所のみであることもあり、葉山町役場の高齢福祉課とは、日頃から連絡を密にして情報を共有しながら、空室が生じた際には、入居支援をいただいたり、協力関係を築くよう取り組んでいます。また、逗葉地区グループホーム連絡会にも参加し情報交換をしています。生活保護者の受け入れ申請はしていますが、現在入居者はいません。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアにとりくんでいます。今後も利用者、家族が安心して暮らしていける環境づくりに取り組んでいきたいです。	法人及び事業所の研修体制が確立しており、身体拘束をしないケアについての研修も実施しています。言葉の問題や省令に規定されていないグレーなものは日々のケアの中で職員同士注意しあうようにしています。過去に2Fから1Fへの階段が急で転倒事故が起こった事があることから、2Fの階段前には柵を設けています。また玄関が車の往来が多い道路に面していることから玄関は、施錠しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないよう会議やミーティング等を利用して職員全員で学ぶ機会を持ち虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてもっと学ぶ機会を作り活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安や疑問を良く伺い十分な説明を行い理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族とのコミュニケーションを日頃より持って意見や要望等応えられるように努めている。	町内の利用者がほとんどで、家族の来所も多く、日頃から家族とのコミュニケーションも良好で、意見・要望は、気軽に話していただいています。また、運営推進会議や敬老会に参加いただいた家族からも、意見や要望を伺い反映させるように努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回経営会議やスタッフ会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月1回法人の経営会議や事業所のスタッフ会議で職員の意見を取り上げます。職員には、食事係・環境係・レク係と主担当者を決め、それぞれの分野での提案・意見を出してもらっています。日常の業務の際にも職員が何か思いついた時には、管理者はその場で聞くようにしています。個人面接は、契約更改時及び随時必要に応じて行います。人材育成は、法人・事業所内研修や外部研修を実施しています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職場環境や現状を良く聞き出し整備環境を整えたり人事考課の実施や職員が働きやすい職場環境に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受けるよう取り組んでいるが継続的には外部研修の人員確保がむずかしい状態である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者と交流する機会を作っているが現実的には参加する機会が取れないのが現状である。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族の希望を出来る限り聞きだす努力をし、確保する為の関係に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や困っている事、要望などを気軽に話して頂けるような雰囲気作りや環境整備に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族と良く話し合い必要とする支援を見極め対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間を共有しながら食事の下ごしらえや買物・外食外出やドライブ散歩など暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら共に本人の希望を聞きながら支えていく関係を築くよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にしてきた馴染みの人や関係が継続できるような支援に努めている。又ホームへの面会、電話連絡等時間帯も自由にして支援している。	事業所への面会、電話連絡等も時間帯を制限しないことで、今まで大切にしてきた馴染みの人や関係を継続できるように努めています。この地域に住んでいた方の入居が多いので、家族や友人の面会者は多くあります。家族と実家に帰ったり、昔なじみのレストランに行く方、友人と旅行に出かける利用者もいます。また、家族や友人の手紙を頂いている方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日が楽しく暮らして頂けるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて継続的な関わりを断ち切らないよう相談や支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いを伺い、出来る事から希望を叶えるように努め困難な場合は良く検討していく。	日々の支援の中で、心身の情報、本人の能力、本人からふと漏れる言葉、家族の発言、職員の対応、ケアのヒント工夫などの出来事をありのままの言葉で時系列にケース記録に記入しています。食事に関する要望が多く、月1回の外食行事や希望の食事の出前を実行しています。趣味的な手芸や歌等好きな方には、レクに取り入れ、その方の意向に沿うように支援しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の思いや家族から、よく話を効き生活しやすい環境を整えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を通し（レクリエーション等）で利用者の現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の意見を聴き、ミーティングや会議等で情報を共有しながら現状に即した介護計画を作成するように心がけている。	入居時は、事前に得られたアセスメントにより作成した介護計画によりしばらく経過観察します。その後、事業所での生活状況ケース記録、ケア業務日誌を参考にして、利用者毎の課題と対応ケアをまとめて見直し介護計画原案を作成します。そして、ケアカンファレンスで職員全員の意見を入れて介護計画を作成し、家族の承認を得た計画により支援しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回のスタッフ会議やミーティング、必要時検討会議等で情報を共有しながら現状に即した介護計画の実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に柔軟な対応が出来るサービス提供するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々とのふれあいを大切にしてふれあいサロンに参加したりして楽しみのある生活が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師とのインフォームドコンセントを大切に適切な医療が受けられるよう支援している。	入居以前からのかかりつけ医を利用している方が多く、各主治医の往診を受けています。外来受診の場合は、家族対応の通院で対処しています。医師と本人・家族間のインフォームドコンセントを大切にしています。協力歯科医は週に1回の往診があり、必要な方のみ受診しています。非常勤職員の看護師が毎週1回来所して利用者の健康管理を行っています。医師の受診記録、看護師の看護記録は、ケース記録にも記載し情報を共有しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の死活の中での体調を出来る限り細分化して看護師に相談し適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や家族との情報交換や相談に努め、良い関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際重度化した場合の家族の意向を伺いチーム全体で支援に取り組んでいる。又必要に応じて法人としての方針と事業所で出来ることを説明しながら月1回入退所検討委員会を開催地域関係者と共にチーム全体で支援に取り組んでいる。	入所の際、重度化した場合の家族の意向を伺い、看取りを希望される方には、家族、医療関係者、職員全員でチームとして支援しています。月1回、法人全体で入退所検討委員会を開催し、地域関係者（役場福祉課、民生委員、家族代表）と共にチームで支援に取り組んでいます。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止に気を使い内部研修等により急変を回避できるように実践力を身につけているが定期的には行っていないし、全ての職員ではない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練は定期的に行っており地域住民に方の参加もして頂き取り組んでいる。地震、災害等の災害時どのように避難するか、話し合っているが具体的に避難場所まで行けなかった時の対応訓練はしていない。:	災害時の避難訓練は、自主避難訓練も入れて定期的に年数回実施しています。直近の避難訓練では、町内会に呼びかけ、地域住民の参加を得て消防署の立会いの下、避難・消火・通報の訓練を行いました。備蓄品として米・水・缶詰類・オムツ類を3日分保管しています。防災頭巾、タオルなどもあります。加熱はプロパンボンベ、明かりは、非常灯とランプ、乾電池を備えています。町内の避難訓練には、管理者が参加しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、対応を行うように努めている。言葉使いや接遇に対して採用時研修を受けている。言葉掛けや気配りに注意を払い誇りやプライバシーを損ねないような対応に努めている。	倫理、マナー、接遇、個人情報、認知症の理解、介護技術、権利擁護などの研修は、年間研修計画に組み込まれており、毎年繰り返し学ぶことで理解を深めています。研修に参加した職員は報告書をスタッフ会議で報告し、全職員が報告内容を共有するために回覧して押印しています。言葉かけや気配りに注意を払い、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう対応しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を聞き押し付けでなくなるべく希望を叶える様な支援を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に希望に沿った支援を行うよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が着たい衣類を開いたり、季節に合ったものを選んでくれる。その人らしい身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いたり支援している。身だしなみに関心のない方には清潔さを保って頂けるような支援を心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常に利用者の希望を聴いてメニューに取り入れています。食材を切って頂いたり、食器拭きを積極的に参加され楽しまれている。食事委員会で話し合ったり、食事アンケートを定期的実施し、好きなメニューに取り入れるよう努めている。	朝食と日曜日の昼食は自前のメニューで食材を買ってきて調理しています。その他は、配食業者を利用しています。出来る方にはテーブル拭き、食器拭きなどに積極的に参加していただいています。毎日の朝・昼・夕食のメニューはリビングに掲示し、利用者の関心を高めています。月1回の外出・出勤食を行い、利用者の要望に応じています。おやつはカステラ、和菓子などを柔らかい物を出しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日2回の申し送りにて、一人ひとりの体調を把握し、栄養面、水分量などに気を配り支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い口腔内の清潔を維持しています。個々の状況に応じた口腔ケアを行い嚥下体操等も実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄状況を把握している。排泄介助の際には出来る限りプライバシーに配慮して支援している。	排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄状況を把握しています。日中は、定時の声かけによりトイレでの排泄を促し、排泄の自立が長く継続できるようにしています。排泄介助の際は、できるだけ見守りに徹し、リハバン・パットを持ち込み、プライバシーや羞恥心にも配慮しながら支援しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い繊維質の野菜や海藻等メニューに取り入れ便秘予防に努めたり水分摂取量が少なくならないよう気配りを行い便秘予防として階段運動やストレッチ、ボール回し運動等を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時には職員と会話をしたり楽しくくつろいで入浴して頂けるよう心がけている。お風呂に入りたい方には、時間をずらしたり職員を替えて声かけします。又入浴剤で気分転換して頂く様支援している。	週3回（1Fは火木土、2Fは月水金）入浴日を決め、入浴中は職員と会話をしながら寛いで入浴していただくことを心がけた支援を行っています。入浴拒否の方には、時間をずらしたり、声かけの職員を替えたりしながら対応しています。入浴前にはバイタルチェック、水分補給、入浴後も水分補給を欠かさず行っています。入浴剤の他、季節の菖蒲湯、ゆず湯も行い気分転換していただけるように支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者により異なり、又体調によっては早く休まれる時もあります。安心して休めるように室温や空気の入れ替え等に心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノート、連絡ノート、申し送りや会議等で職員全員で把握している。服薬時は複数の職員で確認し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者の意見を伺い楽しい日々を送って頂けるよう支援している。好きな事をして過ごせるような環境づくりを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所を散歩されたり、買い物ドライブ等意見を伺いながら戸外に出掛けるような支援をしている。又買い物ツアーなども取り入れている。月1回ふれあいサロンに出かけて地域の方々との交流を楽しまれている。	重度化に伴い全員での外出は難しくなっていますが、外出を希望する方には、近所を散歩したり、買い物ドライブ（スーパーや量販店）や月1回の外食等利用者の希望を伺いながら、戸外に出かけるよう支援しています。月1回の地域の「ふれあいサロン」に出かけ、地域の方々との交流も楽しまれています。また、桜・つつじの花見、衣笠の菖蒲園、三浦のみかん狩り等の遠出も季節に合わせて計画して出かけています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持能力が異なりますが能力のある方には（コンビニ等）自ら支払いをされるなど行って頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お友達や家族、親戚の方から電話がかかってきたり、かけたりされている。手紙や葉書のやり取りもされている利用者もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や生活観を取り入れ利用者が居心地良く過ごせるような工夫に努めている。季節感を感じて頂けるように玄関入り口には季節の花々、玄関内や階段には利用者の手作り小物やタペストリー等飾り居心地の良い共用空間を作り楽しんで頂いている。カウンター上に金魚を飼育して、利用者と共に餌を与えたりしています。	共用空間は、季節感や生活感を取り入れ、利用者が居心地良く過ごせるように配慮されています。玄関入り口には季節の花や利用者手作りの小物やタペストリー（綴れ織り）が飾られ、リビングには、ぬり絵や利用者で作成した張り絵を展示することで、家族等が来た際の話に繋げています。毎月のボランティアによる行事（歌・フラダンス・ゲーム）や利用者の誕生日会は、1Fと2F 合同で1Fのリビングで行っています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は自由にお部屋に戻られ一人の時間を大切にされている。又お話されたい方のテーブルに行かれ会話等楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地良く過ごせるような使い慣れた物や好みのもの活かし生活されている。又自分の好みの物を飾ったりしている。清潔感のある環境を心がけている。	各居室は、広い造りでゆとりがあり、洗面台も設置されているので、洗顔、歯磨き・入れ歯の手入れなど他の人の目を気にせず行えるように配慮されています。本人が居心地よく過ごせるように、使い慣れたものや好みのものを持ち込んでいただくことで、自宅に近い雰囲気の中で生活しています。清潔感のある環境を維持する為に、職員が、毎日、清掃・整理・整頓を可能な利用者と共にしています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で安心できる環境づくりを心がけ目の高さにお知らせメッセージを張ったり問いかけにすぐ対応できるように努力しながらなるべく自立した生活が送れるような支援に努めています。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム 葉山の里

作成日

2016年10月18日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	緊急災害時の対応訓練	緊急災害時避難方法を全ての職員が対応できるようにする。	4ヶ月に1回の避難訓練の実施を継続していく。	28年度中
2	13	外部(内部)研修への継続参加が出来ていないのが現状	継続的に研修に参加できるような体制作りや苑内での内部研修を実施していく。	年間研修計画や月1回の会議を利用して継続的に委員会を設けて実施していく。	28年度中
3	49	外出支援が少ない	なるべく利用者の希望に沿った外出支援をして行きたい。	ご利用者の希望を聞き、外食や買物を実行していく。	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム葉山の里
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	○ 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	○ 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	○ 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	○ 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体としての理念、事業所としての事業計画を作成し、より地域に密着したホームを実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	下町内会に加入し、月1回の定例会に参加したり、「ふれあいサロン」に出席し、昼食を囲み地域の方々との交流を図っています。町内行事には極力参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回の定例会に出席し、苑の状況を話したり、支援方法を地域の皆様に説明している。今回は地域の方々の協力により、家庭での不用品（タオルやシーツ類）の回覧板の効果で大変助かっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1回開催 町の職員、民生委員、家族の代表、利用者2名参加して頂きサービスの報告や活動状況、検食して頂きサービス向上に努めている。グループホームでの現状を報告しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村職員とは、日頃連絡を密にして情報を共有しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアにとりくんでいます。今後も利用者、家族が安心して暮らしていける環境づくりに取り組んでいきたいです。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないよう会議やミーティング等を利用して職員全員で学ぶ機会を持ち虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてもっと学ぶ機会を作り活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安や疑問を良く伺い十分な説明を行い理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族とのコミュニケーションを日頃より持って意見や要望等応えられるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回経営会議やスタッフ会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職場環境や現状を良く聞き出し整備環境を整えたり人事考課の実施や職員が働きやすい職場環境に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受けるよう取り組んでいるが継続的には外部研修の人員確保がむずかしい状態である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者と交流する機会を作っているが現実的には参加する機会が取れないのが現状である。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族の希望を出来る限り聞きだす努力をし、確保する為の関係に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や困っている事、要望などを気軽に話して頂けるような雰囲気作りや環境整備に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族と良く話し合い必要とする支援を見極め対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間を共有しながら食事の下ごしらえや買物・外食外出やドライブ散歩など暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら共に本人の希望を聞きながら支えていく関係を築くよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にしてきた馴染みの人や関係が継続できるような支援に努めている。又ホームへの面会、電話連絡等時間帯も自由にして支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日が楽しく暮らして頂けるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて継続的な関わりを断ち切らないよう相談や支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いを伺い、出来る事から希望を叶えるように努め困難な場合は良く検討していく。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の思いや家族から、よく話を効き生活しやすい環境を整えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を通し（レクリエーション等）で利用者の現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の意見を聴き、ミーティングや会議等で情報を共有しながら現状に即した介護計画を作成するように心がけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回のスタッフ会議やミーティング、必要時検討会議等で情報を共有しながら現状に即した介護計画の実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に柔軟な対応が出来るサービス提供するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々とのふれあいを大切にしてふれあいサロンに参加したりして楽しみのある生活が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師とのインフォームドコンセントを大切に適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の死活の中での体調を出来る限り細分化して看護師に相談し適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や家族との情報交換や相談に努め、良い関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際重度化した場合の家族の意向を伺いチーム全体で支援に取り組んでいる。又必要に応じて法人としての方針と事業所で出来ることを説明しながら月1回入退所検討委員会を開催地域関係者と共にチーム全体で支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止に気を使い内部研修等により急変を回避できるように実践力を身につけているが定期的には行っていないし、全ての職員ではない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練は定期的に行っており地域住民に方の参加もして頂き取り組んでいる。地震、災害等の災害時どのように避難するか、話し合っているが具体的に避難場所まで行かれなかった時の対応訓練はしていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、対応を行うように努めている。言葉使いや接遇に対して採用時研修を受けている。言葉掛けや気配りに注意を払い誇りやプライバシーを損ねないような対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を聞き押し付けでなくなるべく希望を叶える様な支援を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし希望に沿った支援を行うよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が着たい衣類を聞いたり、季節に合ったものを選んでいく。その人らしい身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いたり支援している。身だしなみに関心のない方には清潔さを保って頂けるような支援を心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常に利用者の希望を聴いてメニューに取り入れています。食材を切って頂いたり、食器拭きを積極的に参加され楽しまれている。食事委員会で話し合ったり、食事アンケートを定期的実施し、好きなメニューに取り入れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日2回の申し送りにて、一人ひとりの体調を把握し、栄養面、水分量などに気を配り支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い口腔内の清潔を維持しています。個々の状況に応じた口腔ケアを行い嚥下体操等も実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄状況を把握している。排泄介助の際には出来る限りプライバシーに配慮して支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い繊維質の野菜や海藻等メニューに取り入れ便秘予防に努めたり水分摂取量が少なくならないよう気配りを行い便秘予防として階段運動やストレッチ、ボール回し運動等を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時には職員と会話をしたり楽しくくつろいで入浴して頂けるよう心がけている。お風呂に入りたがらない方には、時間をずらしたり職員を替えて声かけします。又入浴剤で気分転換して頂く様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者により異なり、又体調によっては早く休まれる時もあります。安心して休めるように室温や空気の入れ替え等に心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノート、連絡ノート、申し送りや会議等で職員全員で把握している。服薬時は複数の職員で確認し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者の意見を伺い楽しい日々を送って頂けるよう支援している。好きな事をして過ごせるような環境づくりを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所を散歩されたり、買い物ドライブ等意見を伺いながら戸外に出掛けるような支援をしている。又買い物ツアーなども取り入れている。月1回ふれあいサロンに出かけて地域の方々との交流を楽しまれている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持能力が異なりますが能力のある方には（コンビニ等）自ら支払いをされるなど行って頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お友達や家族、親戚の方から電話がかかってきたり、かけたりされている。手紙や葉書のやり取りもされている利用者もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や生活観を取り入れ利用者が居心地良く過ごせるような工夫に努めている。季節感を感じて頂けるように玄関入り口には季節の花々、玄関内や階段には利用者の手作り小物やタペストリー等飾り居心地の良い共用空間を作り楽しんで頂いている。カウンター上に金魚を飼育して、利用者と共に餌を与えたりしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は自由にお部屋に戻られ一人の時間を大切にされている。又お話されたい方のテーブルに行かれ会話等楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地良く過ごせるような使い慣れた物や好みのもの活かし生活されている。又自分の好みの物を飾ったりしている。清潔感のある環境を心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で安心できる環境づくりを心がけ目の高さにお知らせメッセージを張ったり問いかけにすぐ対応できるように努力しながらなるべく自立した生活が遅れるような支援に努めています。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム 葉山の里

作成日

2016年10月18日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急災害時の対応訓練	緊急災害時避難方法を全ての職員が対応できるようにする。	4ヶ月に1回の避難訓練の実施を継続していく。	28年度中
2	13	外部(内部)研修への継続参加が出来ていないのが現状	継続的に研修に参加できるような体制作りや苑内での内部研修を実施していく。	年間研修計画や月1回の会議を利用して継続的に委員会を設けて実施していく。	28年度中
3	49	外出支援が少ない	なるべく利用者の希望に沿った外出支援をして行きたい。	ご利用者の希望を聞き、外食や買物を実行していく。	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。